

情熱はすごく、由良出身の澤井組社長澤井市造氏が多額の寄付がなされたと記録されています。一四〇年の年を経て、卒業生は、三千人以上を送りだしましたが、由良小学校が閉校になる

由良小学校は、明治六年に松原寺禪堂を校舎として開校しました。明治十年に、敷地三四六坪を確保し現在地に移転、十二年には校舎を一棟増築、三十三年に敷地七十四坪を買収、さらに三十六年に二一五坪を買収し、少しづつ形態を整備していきました。由良石を使用し市道に面して石垣を構築しました。

地区民の小学校建設に対する懼いことが多い。

学校から授業のチャイムや明寂しさを感じる方も多いと思います。

それもこれもすべて無くなる。すごくさみしい。

小学校の思い出は

この頃は、冬になると、一メートルの降雪量はめずらしくあります。この頃は雨水の排水設備が整備してなく、雪解けになると舗装しない道路に水があふれだし、下駄（ゴム靴は貴重品で限られた人だけが使用していた）より上になり、冷たい水で足が毎年「しもやけ」になっていました。小学校からの下校時は特に大変だった覚えがあります。それぞれの教室の暖房は、薪を燃やすダルマストーブであり、毎朝当番の子供が、たきつけの小枝と新聞紙を登校時に持つて行きました。当時、給食はありませんでした。毎朝、

会はもちろん当時、由良村の成

我が母校の終焉に想う

由良地区公民館長 枝川 隆亮

No.147

ム民館、よ、

平成25年3月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

人式などもこの講堂で行われました。

この講堂は、當時めずらしいリノリュウム張りの床であり、非常に高級感がして、豪華であつた印象を覚えています。

この講堂で学年対抗ドッヂ

ボール大会をしたこともあります。現在は、地球温暖化で温かい気候になっていますが、この頃は、冬になると、一メート

ルの降雪量はめずらしくありませんでした。この頃は雨水の排

水設備が整備してなく、雪解け

になると舗装しない道路に水

があふれだし、下駄（ゴム靴は

貴重品で限られた人だけが使用

していました）より上になり、冷た

い水で足が毎年「しもやけ」になっていました。小学校からの

下校時は特に大変だった覚えが

あります。それぞれの教室の暖

房は、薪を燃やすダルマストー

ブであり、毎朝当番の子供が、

たきつけの小枝と新聞紙を登校

時に持つて行きました。当時、

給食はありませんでした。毎朝、

母に作つてもらつたアルミ製の大きな弁当箱をストーブの上の水が入つた缶にのせ、昼はホットカホッカの食事をしていました。教室横の木製廊下は、米ヌカを袋に入れ四人くらい横一列に並び長さ約三十メートルを競争で拭き、いつもピカピカにしていました。冬期、その床の上で「おしくらまんじゅう」をするのが日課でした。

その時代、テレビはもちろんラジオもあまり普及してなく、たまに雨天体操場で村の青年団等が開催する演芸会、音楽会、映画会などが娯楽の少ない地区民にとつて唯一の楽しみでありました。

子ども達は、新学期から栗田小学校に元気に通学してくれることでしょう。

私たち大人は「由良小学校が閉校になる」という現実を受け止め、「活力ある丹後由良」にしようではありませんか。

行事報告

主事磯田充亮

○十一月三日（土）文化の日 文化祭

手芸 51点 生花 18点
他に砂絵・切絵・レザークラフト等に、特設として庄内由良との交流記念品、昭和二年丹後地方で発生した大地震による被災写真等がありました。

今年は長年お世話になつた、裏千家「淡交会」による「お茶会席」が中止になり、楽しみにしていた人達から再開を希望する多くの声がありました。

作品は力作が並ぶ中、特設として運動会で撮影された「人文字」写真が展示され、多くの人が足を止め自分の立った場所や自宅の位置を確認しあい、話合いう声が弾んでいました。又、音響効果として由良小学校校歌をオルゴールの音色で流されまし

今回は、由良カメラクラブ・
はまなす苑から多くの出展があ
り昨年より約百点多い四七九点
(出展者一二六名)の応募があ

主な内容は、

絵画（ポスター類含む）52点
写真 57点 書道（習字）25点

◎十二月二十一日(土)

「子供料理教室」

子供のびのび体験活動

新春公民館围棋大会

◎一月十二日(土)

でお知らせ済み

ました。（詳細は「公民館がいど」）

ンするもので、ほとんどが経験者で、経験を生かし素早く綺麗にできました。

各班、出来あがつたケーキを前に記念写真を撮った後試食しました。食後は卓球やゲームをして親交を深めていました。

今年も昼食後、感想文を書いてもらいました。後頁に掲載します。

優勝	中西衛	A組
準優勝	今西秀夫	
三位	飯澤登志朗	
中西衛	藤井忠	B組
總合優勝	三嶋安夫	

◎一月十九日(土)

卓球教室

生涯スポーツの普及と健康づくりの一環として冬場に適した運動をしていただくため開設し

総合優勝者にはトロフィー、各優勝者には賞状と賞品を、準優勝・三位の方には賞品、他は参加賞を贈呈しました。

今回も宮津市食生活改善推進委員協議会（食改）の皆様の指導を受け、由良子供会連絡協議会共催でクリスマスケーキ作りを実施しました。

例年どおり由良囲碁同好会の協力を得て開催しました。

最後の寄稿

宮津市立由良小学校・幼稚園

校園長 小 奥 伊 善

明治六年五月、松原寺禪堂から開校された由良小学校も、平成二十五年三月三十日をもって、一四〇年の歴史に幕を閉じます。

この永い歴史の中で、由良地区のみな様は由良小学校に対して数多くの思い出を持つておられる

ことと思います。小学校在籍時の思い出、少し大きくなつて中学生・高校生の時に感じた小学校への思い、由良の地を離れてからの小学校に対する思い等、由良小学校が閉校になる今、走馬燈のように思い出されるのではないでしょ

うか。
わたしたち教職員も同様です。それぞれ勤務期間の違いこそあれ、由良小学校に勤務していた事実とその時に触れ合つた多くの人たちのお顔と温情が頭のアルバムにぎっしりと詰まっています。

わたしが校長として由良小学校に赴任し、最初の公民館だよりに寄稿した際に、前任時に記憶に強く残っていた場所としてあげたのが、①出会いや別れの場であつた由良小学校の玄関、②由良小学校のシンボルとして存在していた校庭の森、③新一年生歓迎遠足として全校児童で登つた由良ヶ岳でした。

また、記憶に残つてゐる事柄として、庄内由良との交流のことでした。その中で、当時、最初の庄内由良を訪問できなかつた懸念さを書いていましたが、幸運なことに平成二十四年が庄内由良訪問年にあたり、晴れて訪問団の一員として参加することができました。庄内由良は景色も大変素晴らしい、そこに住んでおられる方々も温情に溢れ、大恩人を迎えるかのごとく身に余る歓迎をし

てくださいました。また、鶴岡市立由良小学校との交流では、子ども達も先生方も心からわたし達を迎えてくれました。庄内由良小学校の中での最も大切なことは、全命さが伝わり、心に大きく響き目頭が熱くなりました。

このような体験をさせていた

だきました由良自治連合会や地域のみな様に改めて感謝申し上げます。庄内由良訪問という体験は、私にとつて大きな財産となり、生涯に残る思い出となりました。退職後は、もう一度訪れてみたいと思つています。

最後にわたくし事になりますが、由良小学校に勤務していた昭和六十三年から平成四年の間に小奥家は形づくられました。平成元年に結婚しましたが、当時の六年学級懇談会で、学級行事の日程が話し合われました。ただ、結婚についてまだ保護者のみなさんにはお知らせしていませんでした。そのため、学級行事と結婚式の日が重なつてしまい、大慌てで

結婚報告したことを覚えていました。そして、平成二年には第一子が、平成三年には第二子が生まれました。このように、知り合い・結婚し、子どもが生まれてと、人生の中での最も大切なことは、全て由良小学校に勤務していた期間にありました。我が家は、とても思い出の深い由良の中でも思ひ出の深い由良の地となつています。

わたしは今年度で教員生活三十三年になります。そのうち七年間を由良小学校で過ごせたことは、わたしにとつて大きな喜びであります。公私ともお世話になつた由良小学校に永遠の鍵がかかるることはとても寂しく思います。しかし、由良小学校の子ども達にとつては新しいスタートとなります。今までと変わらぬ明るさと元気さで、大きく成長してくれるものと信じています。今まで由良小学校を支えていただきました由良地区のみなさま、ありがとうございました。由良地区のみなさま、ありがとうございました。このごとに、どうございました。みなさまのご活躍をご祈念し、最後の寄稿とさせていただきます。

追悼

由良地区公民館

元由良地区公民館長 小室哲寛氏は病気療養中のところ去る十二月九日永眠されました。享年八十七歳でした。

茲に謹んで哀悼の意を表します。

氏は、平成二年十月から平成六年三月まで公民館長として溢れる情熱と卓越した指導力を發揮され、公民館の育成発展に大いに寄与されました。

「生涯学習」では、乳幼児から女性、高齢者が安心して豊かに生活出来る環境づくりから、さらに健康向上の為のスポーツの普及に尽力されました。

フィットネス教室や文化面でも趣味や同好者を通じて巾広く取り組まれ、その意志は連綿として受け継がれ現在の公民館活動に生かされています。

今年度末には小学校閉校となり益々公民館が地域のスポーツ、文化活動の拠点として重要視されますが、氏の意志を汲み活動を進めて参ります。

地域とともに生きられた氏のご冥福をお祈りいたします。



「公民館だより」の表題は、小室哲寛氏の揮毫によります。
平成三年八月No. 84以降使用しています。

今春三月に由良小学校が百四十年の歴史に幕を降ろします。この機会に遡つて由良地区公民館が発行する「公民館だより」を開いてみました。

平成五年十二月No.九一号に「七十年前の由良小学校火災と改築のことなど」と題して故中西芳三郎氏が投稿されていますが、文章を引用しながら振り返つてみたいと思います。

由良小学校の火災は、大正十一年五月二十五日午前一時頃出火、同三時頃に鎮火しましたが、第一校舎、第三校舎及び雨天体操場が炎々なる焰に包まれ焼損を極めたと書かれ、その損害は建物参百八坪、校具等合せて当時の金額で約七万円余りとなっています。

当時の由良村村長は大森清四郎氏、助役沢井貫藏氏、そして

校長は竹内亀吉氏であり、直ちに再建に向けて建築委員会が結成されて計画が進められました。再建計画の内容は、本館二階建（職員室、講堂）校舎一階三教室（五間×十五間）を三棟、雨天体操場、付属建物等で予算は約拾万円でした。

寄付で本館と校舎一棟を予定し残りを地元で地区割となりましたが、再三協議するも難行、最終的に決定した地区割は別表のとおりです。

当時の米価は一石（一五〇kg）が二十八円で現在市販されている米価で換算しますと再建工事費用は約二億壱千万円余りになるのではないかでしょうか。

また大正末期の日庸賃金が一日五十銭位であり、大正七年に初めて由良に電灯がついた頃、各家庭に灯されたのは一〇燭光

「公民館だより」から

飯澤 登志朗

が一灯のみであった等その時代の生活から考えると学校再建に対する各戸の負担は相当厳しく重いものでありそうした条件のなかで住民の再建にむけての情熱と強い意思を感じることが出来ます。

当時は、国の補助等は無く全額地元負担での計画でした。村長をはじめ建築委員会の方々は、出来るだけ立派な新校舎を建築したいと考え地区割当ての倍以上の寄付を見込んで頑張ったようですが寄付の詳細は明らかにされていないようです。

再建された本館は、校長室の重厚な扉や講堂へ上がる階段の手すり、リノリューム張りの床、そして由良石で作られたバルコニー等思い出は尽ることがありません。

そのバルコニー正面にあつた校章は現在の校舎玄関の左側に寂しく置かれています。

昭和四十四年に現在の校舎が完成していますが、卒業生に

なかで住民の再建にむけての情熱と強い意思を感じることが出迎えられます。

入学、卒業共現在の校舎や

は、木造校舎からの卒業生、入

学は木造で卒業は現在の校舎や

に分かれますが、それぞれに思

い出を強く感じながらその日を

迎えられることでしよう。

地域の中心である学校が消えていく現実を見守りながら、海、山、川とすばらしい自然が残っている郷土由良が住みよい環境を維持しながら再生することを願つて止みません。

別表 地区割負担表

上石浦	4,545円
下石浦	3,300円
港	4,520円
浜野路	11,290円
東崎	3,980円
松下	5,725円
脇	13,930円
家門	830円
合計	48,130円

(注) 東崎、松下、家門は現在の宮本

人権擁護委員と

「いま世間の注目の的」について

人権擁護委員 山口正憲

今更ですが人権擁護委員の活動は、全国でおよそ一万四〇〇〇名が、市町村長の推薦を受け法務大臣から委嘱をうけた民間ボランティアで、一期は三年です。

法務局や市町村役場、公民館などで人権についての相談を受けたり、地域住民の皆さんに人権についてのいろいろな啓発活動を行っています。

「宮津人権擁護委員協議会」では、宮津市、伊根町、与謝野町から二十一名の委員が委嘱され活動しています。

昨今、いじめによる中学生の自殺・

クラブ活動での虐待や暴力・パ

ワハラ・人権無視の外国でのテ

ロによる無差別殺人等、大きな事案が起き、社会の大きな問題の的になっています。

「人権」とは、「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」・「人間が人間らしく生きる権利、生れながらに持つ権利」であり、子どもたちには「命を大切にすること」、「みんなと仲良くすること」です。

今回、問題のいじめについて少し述べます。

いじめの定義は「当該児童・生徒が、一定の人間関係にあるものから、心理的・物理的な攻撃を受け続けたことにより、精神的苦痛を感じること」です。

(起つた場所は学校の内外を問

わない。)

原因是、他のものより優れていたい・認められたいなどの欲求が叶えられないための攻撃行動や社会的常識を持たない人間

がコントロール出来ない場合が主な原因で、それを分析すると、多くの場合家庭に問題があることが多いといわれています。

そこで対策としては、学校での対策が重要ですが、加害者の家庭での基本的な日常生活が大変重要視されます。

当協議会でも、各学校で行っている寸劇による啓発、「子どもの人権SOSミニレター」や「子どもの人権一一〇番」で相

談に応じたり、現在も啓発用に管内の小学生や中学生から募集した人権標語に、中学校の美術部へ標語に似合う絵をお願いして「人権カルタ」の作成中です。事案が起れば速く相談することが最も大切です。世の中では少子化が進むなか、子どもは世の宝ものです。先述のような事案が起きないことを願っています。

仕事を始める勇気、取り組むアイデア、奉仕する労力・それに感服するが、その上に人様に提供するための味とサービス・それら諸々を克服し出發したサークルの皆さんのが団結と勇気に感謝しています。それらの結果誕生した『安寿うどん』の旨い事、うどんもなめらかでコシがあり、最後のお汁まで頂戴してしまう程である。しかし、この足湯もうどんも利用する人が少なくては存続しない訳です。そこで我々が協力する方法はないかと考えました。一人

舞鶴から宮津からと現在由良在住者を中心に十八名です。由良を離れた連中も何時でも第二木曜日に由良の足湯に来れば同級生に会える、そして足湯の継続に少しでも協力できる。我々七十七歳の出来るささやかな由良活性化と思いつつ、今月も足湯に集まります。

一杯のうどん

中西 六右衛門

宮津市長の肝いりで出来た由良の足場「安寿足湯」がリニューアルされて、本格的なリクリエーション・健康足湯として充実したが・・・地区内の利用が少ない事・・これなんじや・・と思えるほどであった。

由良はダメ、過疎化、老齢化と云つてばかりいても、これは

日本中の当たり前の事で何も救いも良くもならない。それじゃ自分だけでもと足湯回数券を提案し実現して頂いて感謝している。早速回数券千円で十二枚、こんな割の良い券は少ないと活用させて頂いている。しかしこの利用者も少しずつ増えてはいるもののびっくりする程で無

い。

これで足湯がと・・心配し、リニューアルで調理場と休憩スペースが生まれたが、これを活用し地区民が集まる施設になればと期待していたところ港地区のご婦人達を中心とするボランティアグループでの「安寿うどん」が誕生しました。

仕事を始める勇気、取り組むアイデア、奉仕する労力・それに感服するが、その上に人様に提供するための味とサービス・それら諸々を克服し出發したサークルの皆さんのが団結と勇気に感謝しています。それらの結果誕生した『安寿うどん』

の旨い事、うどんもなめらかでコシがあり、最後のお汁まで頂戴してしまう程である。しかし、この足湯もうどんも利用する人が少なくては存続しない訳です。そこで我々が協力する方法はないかと考えました。一人

舞鶴から宮津からと現在由良在住者を中心に十八名です。由良を離れた連中も何時でも第二木曜日に由良の足湯に来れば同級生に会える、そして足湯の継続に少しでも協力できる。我々七十七歳の出来るささやかな由良活性化と思いつつ、今月も足湯に集まります。

由良地区住民の皆様の英断に感謝

浜野路 森 田 耕 二

本来であれば、小学校の思い出などを記すところなのでしょうが、「保護者」「地区住民」の立場に加え「PTA役員」として、諸々の協議に最も多く関わったことから、『由良小の閉校』という地区の皆様の英断に感謝しつつ、経過報告を行うことで責務を全うしたいと思います。

○平成二十年三月二十五日 『宮津小中学校再編案決定』の新聞報道

当時、我が家は未子は由良小で初めて複式学級を経験した学年でしたので、母校が無くなる寂しさよりも同級生同士で野球やドッジボールができる環境整備への嬉しさの方が強かつたのを思い出します。この案は、約一年前の平成十九年九月から宮津市教育・保育施設再編検討委員会において八回にわたり協議された「提言」を受けて、宮

津市が発表したものでした。

○平成二十年七月八日 『提言内容に係る説明会』(宮津市主催)

新聞報道から半年後。市内九地区で開催され、参加状況は合計二七三人。由良地区は九地区中最も多いものの五十八人であり、地区民の関心のなさに落胆したことを覚えています。この時は提言内容の説明と意見交換が主体の会合でした。

○平成二十一年三月八日 『第一回保護者のつどい』(由良幼稚園主催)

当時の吉岡PTA会長が急逝。彼の遺志を引き継ぎ、全保護者及び未就学児の保護者を対象として開催しました。計画案に賛成反対と結論付ける会合ではなく、保護者の立場で双方のメリットデメリットを理解し合う勉強会的な会合になるように注意をしながら、『ブレインス

トーミング』法により進行しましたが、【地域論】と【教育論】の狭間で保護者の意見の統一はかなり困難だと印象付けられました。参加は三十四世帯中十四世帯と少なく、今後、地区全住民を巻き込んで地区最大の問題の議論を高めていく上では、参加率があまりにも低く、今後に大きな不安を残しました。

○平成二十一年七月十四日 『再編計画地元説明会』(宮津市主催)

市内九地区で開催され、参加状況は合計三〇六人。由良地区は今回も九地区中最も多いものの七十五人。「地元住民の合意が大前提であり、合意なしの再編はあり得ない」「再編時期は平成二十四年度を目指す」「今回は議論の第一歩。自治会・保護者等地域でじっくり協議の上、住民の総意として取りまとめる」の議論が地域を見つめることを期待などの説明がありました。

○平成二十一年十一月 『保護者アンケート』の実施(保護者会)

保護者の見解の傾向を把握する目的で実施しました。結果は既に回覧にて全戸に報告済みですが、この時点では、統合に「賛成」約五割、「反対」約二割、「わからない」が約三割の調査結果でした。

○平成二十二年七月十六日 『由良小学校再編問題を考える会』の設立

保護者内では一定の動向があり、保護者のつどいの報告書を自治連にあげてはいるものの、地区では一向に議論の場も設けられず、時が過ぎていきました。

《第二回保護者のつどい》(由良幼小PTA主催)

地元説明会を受け、他者の意見に耳を傾け自らの意見を述べることをテーマとし、自らの思いを確立するため開催。参加は三十世帯中十五世帯であり、早期統合を望む低学年の親とまだ統合を決めかねる高学年の親としては意見が分かれました。

ようやく開催された自治連役員と保護者代表との協議の結果、各種団体から選任した十六名を委員として「再編問題を考える会」を設立。翌年十一月の最終回答までに九回、回答後に二回の会議で検討を重ねました。(各会議の内容については住民説明会で説明済み)

再編問題を考える会としてことは、「保護者の意見を尊重することにもまして、小学校の現状把握を重視した場合、統合すべきである」と結論づけました。

○平成二十三年一月二十三日
《第三回保護者のつどい》(保護者会主催)

最終回答までに時間的余裕が

ない中で、保護者として統合時の要望事項・条件の整理を行いました。二十八世帯中十五世帯の参加があり、「スクールバスの単独運行」をはじめ「由良地域感情を十分考慮すること」など全二十四項目の条件要望を整理しました。この時点では全保護

会議の内容については住民説明会で説明済み)

過去六回にわたる協議や保護者会及び市教委との協議内容から「平成二十五年度から栗田小との統合」を結論とすることに

ついて、各自治会及び各種団体代表者、公民館運営審議会委員及び元市会議員の皆様に経過説明を行いました。

○平成二十三年九月十六日《住民説明会》

最終結論に達した経緯説明を行い住民の理解を求め、了解を得、住民の総意としました。

○平成二十三年十一月二十一日
《宮津市長あて回答書提出》

由良自治連合会長名にて①将来にわたって複式学級を解消する見込みがないこと②子供の成長には集団での体験活動が必要不可欠であること③現保護者が早期統合を望んでいること、以上三点を基本理由とし、平成二十五年度からの統合に同意する内容の回答書を宮津市市長に

者の意見統一がなされました。

○平成二十三年七月一日《第七回由良小学校再編問題を考える会》

過去六回にわたる協議や保護者会及び市教委との協議内容から「平成二十五年度から栗田小との統合」を結論とすることに

提出しました。

そして、本年度。宮津市及び栗田小PTAとも摺合せを行ない、由良の子供たちがよりスマートに新しい生活になじむよう頻繁に交流学習も進められました。

した。

なお、由良小学校が閉校とな

る背景には、「休校」のままで学校として宮津市により継続維持をされるため、住民がグラウンドや体育館を地域交流や健康増進の場として使用することができない制約が生じることから、今回「閉校」という形になりました。

今春から子供の歓声が地区内に響く機会が少なくなることは寂しい限りですが、子どもたちにとってよりよい教育環境が整いつつあることは大変喜ばしいことではないでしょうか。

地域における学校の重要性

三年余りでした。会議の度に私も一八〇度考え方を変わるという状況の中で、「問題を先延ばしにしても状況は一切変わらない。ならば早期統合を望む。」と言つたある保護者の意見により【教育論】で進むべきだと確信しました。

紙面都合上、すべての会議内容について記載することは不可能ですが、これら会議以外にも多くの打ち合わせや役員会などを開催したことを申し添えます。今後、学校閉校後の跡地問題・幼稚園の問題などまだまだ課題は山積みです。最善の方策が検討されることを願います。

最後に、平成二十二・二十三年度自治連合会長藤本繁光様をはじめ各年度の自治会長様には相当のご苦労をおかけしたことに対してもお礼申し上げるとともに地区民の皆様の英断に改めて敬意を表す次第です。

さようなら 由良小学校

岡 田

武

ありがとう！さようなら！

親子三代にわたつての小学校。孫たちも入学！その矢先の衝撃。諦めと無力感を当時、里センターの帰り道で味わった事を憶えています。それでも保護者の皆様方の真摯な意見やアンケート回答にこれで良かったのかなと今は感じております。学び舎は栗田に変わつても由良の子供は「由良の子供」です・元気に逞しく成長することを願つております。

私の小学校時の記憶といえは体育館での馬跳び・ドッジボール、グラウンドでのエスケン等遊びより思い出せません。泣いた顔や笑った顔・怒った顔ばかりで真面目に机に座つた事はあまり無かつたのかも知れません。それでもひとつ憶えていける授業があります。「父ちゃん・

母ちゃん・わし・われ」は方言で良くないから標準語を使うように教えられた事です。「お父さん・お母さん・僕・君」です。テレビで話す言葉を家で使う！今でいうカルチャーショックを受けたよう当時を憶えています。

二十年を経て娘達が小学校へ入学しました。浜つ子マラソン由良ヶ岳登山・遠泳・etc。娘達の話に学校での様子が手にとるよう分かりました。叱られた時、褒められた時、口惜しかつた時、友達の事、怖い先生、優しい先生、好きな先生、嫌いな先生、自分の子供を育てるように教えるように教えてくれました。先生も大変なんだと頭の下がる思いです。先生も教育方針が色々あるようで、長女が五年生の時でしたか新しい先生の授

業で「分かる人、手を挙げて」と言われ、手を挙げて答える時「間違つているかも知れんけど」と前置きをしてから答えようとすると、新しく担任となつた先生が「そんな前置きは言わんでも良くないから標準語を使うよい。間違えるから覚えるんやうに教えた事です。」「お父さん・お母さん・僕・君」で覚えたらえんや！」家で話す娘は不思議そうな顔で話してくれた事を思い出します。その先生が次女の西京極での競技会に奥さんの実家から応援に駆けつけてくれました。こんな先生が校長先生になつてくれたら学校も随分と変わるんやろなと思つたものでした。小奥先生！有難うございました。娘たちは今元気一杯におばさん生活を楽しんでいます！三女を受け持つてくれた伊藤先生！先生は星が好きで、よくグラウンドで星の観測に娘達を誘つてくれました。穏やかで娘が叱られた記憶が全くありません。その娘は患者を叱りとばす看護師をやつています。分からんもんですね。

それから四女を受け持つてくれた大槻先生！ニックネームを沢山持つておられた先生です。引っ込み思案でいつも人の後ろにいる子供でしたが、先生の指導の賜物かアレヨアレヨの大変身をとげ元気一杯の「ど根性娘」に変身しました。成人式に顔を見せて頂き、娘達の感激もひとしおだったと思います。嬉しいサプライズを本当に有難うございました。娘はブライダル関係で「幸せ」のコーディネートをしています。

六十歳を過ぎて振り返れば一番古いアルバムの数枚の記憶と子育て真っ最中の思い出です。

五十年前の校舎の正門での卒業写真は緊張し、前を向いていた私達でした。四十数人と校長先生以下九名の先生が映っています。まさしく走馬灯です。

由良小学校の皆さん！
有難うございました。

川柳

宮津番傘川柳会 大森美智子

鳥の春 鈴が冴えます 花遍路

あこがれの マウントクックの 輝やきよ

湖の 神祕は霧に 包まれる

忘却の 彼方夕陽は 鮮やかに

枯野残照 いとしいままの 風の音

大好きならばあちやんだから
死なないで やさしい曾孫に

癒される日々
娘を七うし寂しかれども

ひた生きて

坂本妙子
ハプニレグ 続き筋書 逆にする

ポイレトを しつかり生きる 老二人

クシヤミ造 父に似てきた 娘の悩み

短歌

坂本妙子

限界を知つて退職したと云う

パークリン病む弟哀し

九十四年を姫逝きた

差しのべる この手を誰かが 求めてる

(中学一年生)

いじめはね 人をきずつけ だめなこと

(小学四年生)

やさしさが 心のきずを なおすんだ

(小学五年生)

平成24年度 宮津市人権標語入賞作品

差しのべる この手を誰かが 求めてる

いじめはね 人をきずつけ だめなこと

やさしさが 心のきずを なおすんだ

クリスマスケーキ作りに参加して

(感想文を転記)

ケーキのもりつけがむずかしかったです。

またらいねんあればきたいです。

六年 岡 本 凌 輝
今日のケーキ作りは、ケーキが上手にできてよかったです。
今年でぼくは最後だけど、また家でケーキづくりをしてみたいです。

六年 小 室 麗 妃

今年はケーキがうまく作れたと思います。理由は、きよ

年のケーキ作りではぐちやぐちやだったけど、今年は班のみんなが協力してケーキが上手に作れてよかったです。

今年は最後のケーキ作りだけきれいにつくれてよかったです。

六年 田 村 那 奈
今年はさいごの料理教室で自分のには上手につくれました。きよ年はすこしへたでし



(感想文を転記)

六年 室ざわ かいえ

ぼくはケーキを作るときに班長をまかされて、きんちょうしました。ケーキを作るときいろいろとぼくはしつぱいしてしまいました。ぼくは、たつきゅうが楽しくて、時がたつのをわすれて、いつのまにか十一時三十分になつていて、カレーライスがおいしかったです。

五年 上 羽 省 吾

班に分けるのがすごくたいへんでした。すごくにぎやかでした。ケーキはひさしぶりに作つたからすこしかたむいた所もあつたけどくだものでなおしたりしました。たのしかつたです。

五年 中 西 智 也
ケーキがおいしかつたし力

ムもすごかつたです。

五年 小 林 ゆうき

何回も来ていて、今年は、ちよつといつもとはちがいました。みんながあぶくないよう包丁をつかわないことを考えたり、昼ごはんは、いつもハヤシライスだったけど、カレーライスの味も味わうことができました。いつもとはちがうかんじでとてもおいしかったです。

四年 大 森 愛 菜

今日は「子供料理教室」にケーキを作りに行きました。学校の人は、たくさんきていてとてもにぎやかでした。すこしするとチームがきまつて、ケーキを作りました。と中でクリスマスがたりなくなつたり、どうしようと思うこともあつたけど、上手につくれたと思います。おひるごはんのカレーライスとやさいは、おいしかつたです。

てびっくりしました。ケーキも上手に作れたし、カレーもおいしかったです。今日はとても楽しかったです。

四年 岡本祥希

ぼくはケーキを作るけど、こう学年として、しっかりとしないので、しっかりと作れるかなと思いました。

はじめきじに生クリームをぬれたけどまちがえました。完成した時には、ちょっと生クリーミーがいっぱいあつたので、とつぴんぐもダメでした。

お昼のカレーもおばちゃんたちが作ってくれておいしかったです。

四年 濑戸野拓真

ぼくは、きよねんよりもケーキが上手にできてよかったです。それと作ったケーキがいちばんおいしかったです。それと今年最後か分からぬけれどももあつたら今年よりきれいでおい」など協力してできました。

いしいケーキが作れたらいいなあと思いました。

四年 野津ゆうな

今年最後の子供料理教室でペアは、れいちゃん、りほちゃん、れいなちゃん、ここちゃん、みきおくんでした。最初にふくろからスポンジを取り出してクリームをぬりました。次にトッピングしました。その次に、上のスポンジをのせて、クリームをのせて、モモ・イチゴ・パイナップルをのせて完成しました。

今年最後のケーキ作りで乐しかったです。

四年 升田実梨

今日はたのしみにしていた「ケーキ作り」でした。妹弟もいきました。初めは、ケーキを作りました。私は四ぱんでした。「〇〇とつて」「〇〇してい

みんな楽しんでくれてありがとうございました！
また、来年もいっしょに楽しみたいね。

由良地区公民館



カレーもおばちゃんたちが作ってくれたので、食べました。おいしいかったです。らい年もできたらいいなあと思いました。

第30回 宮津市民卓球大会

平成二十四年十二月二日

(日) 宮津市民体育館で行なわれ、由良から十一名の方が参加されました。結果は次のとおりです。
(敬称略)

◎団体戦

A級 準優勝
C級 優勝

(敬称略)

◎個人戦

・一般男子の部	B級	準優勝
C級	優勝	
・一般女子の部		

熊田良雄

・中学生女子の部
三 位 小林久美子

・小学生男子の部	優勝	小林祐樹
三 位		



さようなら 由良小学校

小 西 衛

僕たちの国は庶民が娯楽として旅を始めた最初の国だということを知つていましたか？僕は、読書で最近知りました。庶民の旅といふと、僕たちは、弥次さん喜多さんの「東海道中膝栗毛」や「お伊勢参り」そして、JR東海の「ディスカバー・ジャパン」テレビ・コマーシャルを、想像します。

しかしながら東京から帰つてきまして既に二十七年、電車に乗つて一年に二度ぐらい京都市内に行く事はありました。経済的理由や健康上の理由などで、もう今は舞鶴市や宮津市内に、KTRで行くのがやつとの有様です。

ずんずんと変わっていく東京・大阪そして、九州・福岡県・福岡市博多（JR博多駅ビルの賑わいなどは、日本国中の不景気を忘れさせてくれます。）

○甲子園球場での「阪神対巨人」、それに北海道・札幌ドームでの「日本ハム・ファイターズ」の地響きがするほど、足をドタバタさせながら、白いタオルを手に持つて、一生懸命に「円」を描くように振り回す、子ども達から大人達までの精一杯の『応援風景』をドタドタさせながら見てみたい。

○徳島の「あわおどり」、岸戦

多「どんたく」を興奮しながら見てみたい。

の有様などを、わずかにテレビを見て新聞・雑誌で読み、友人に聞くばかりのことです。何を見たいかと思つても、もはや僕の力に及ばなくなつて来たようだからそこで自分の見た事のないもので、見たい、行きたい、聞きたいと思うものを挙げると（僕の夢）

○♪「吉田拓郎」・♪「中島みゆき」・♪「南こうせつ」・♪「サンオールスターズ」のライブコンサートを「たくろーお！」から「みゆきちやーん！」「こうせつくーん！」「ケイスケー」・手拍子「チャツ・チャツ・チャツ」と、大声で叫び、くいいるようになって聞いてみたい。「日本武道館」なら、なօさらイイネ。誰もが皆んな「感度良好」になるだろう。

○タレント・映画監督の『北野武』

○又聞きますが、アメリカ・ニューヨークシティーから地下鉄に乗つて、ハーレム（黒人街）に行き、本場ジャズの生演奏を聞いて見たい。きっと♪ジャズ・音楽で、身も心も包み込んでくるハズサ。

○大晦日恒例の♪「紅白歌合

で見てみたい。

○アメリカ・カリフォルニアにインター・ネット関連の企業が集積している「シリコン・バレー」という場所があります。

そこを見習つて東京都渋谷区初台に「ビター・バー」という場所があるそうです。その場所を『不思議な気持ち』で見学したい。

○東京臨海副都心

○由良公民館だよりで、由良地区公民館長や由良歴史をさぐる会長が、お書きになつた、山形県鶴岡市由良に行きたくなつて來た。庄内由良については由良小学校、生徒の大森君・中西君・室澤君・上羽君達も書いていましたね。特に僕は、作家・藤沢周平が大好きになつてきていますので、『藤沢周平記念

館』にムシメガネと地図を持ちこんで、一生懸命に学びたい

○この前まで日本では、『写真』というものがきちんと評価されていなかつた。しかし、最近では欧米には及ばないにしても、だんだん『絵画』と同じ地位を得てきてるようです。そこで東京都目黒区恵比寿の『ガーデンプレイス』にある『東京都写真美術館』に行ってみたい。

だから来年度発行の、由良の『閉校記念誌』を、旧友といつしょに苦笑しながら見てみたい。

○『歌舞伎』は、日本を代表する文化です。そこで、市川団

十郎さんの『勧進帳』という演目を京都歌舞伎座で、澄まして見てみたい。この物語を本から引用しながら書きますと。

義経が兄貴の源頼朝に疎ま

れて指名手配され、逃げ続け、今の石川県安宅閑というところの関所で富樫左衛門という守に問いただされる。ここで弁慶

は「勧進帳」（いろんな人から受けた寄付を書き留めてある巻物）を読み上げて、怪しい者ではないということを証明しようとする。当然「勧進帳」などはもっていないので、ウソをついで白紙の巻物を読み上げてみせるわけです。しかし、富樫という関守は、二人が義経と弁慶であるということに気づく。すると弁慶が「お前がぼやぼやしてるとから、疑いを受けるんだ」と主人である義経を足蹴にし、殴打します。それを見て富樫は、彼らの素性を知りつつ二人を見逃してやるのです。そこで富樫のよう弱者に肩入れすることを『判官贔屓』と、いうようになりました。N H K 大河ドラマ『義経』では、見た覚えがありますが、『歌舞伎』で見たことはありません。

○なぜ沖縄県石垣市（石垣島）は、人口が増えているのか？『石垣島』へ行って、この島は、人口が増えているのを目で見て知つておきたい。今、本土から沖縄に移住する人が年間二万五千人。人口がどんどん増えています。大きい島、沖縄本島や奄美大島みたいな島は別として、日本中の島で人口が増え続いているのは、石垣島だけです。一番沖縄が将来に希望があるから人口が増え続けていつてているのですよね。宮本地區のTさん、そうですよね。友人にお金を取りまくつても行っ

し』を始めて、それがだんだん成功に向かって「前へ前へ」いつていました。町の人々が一つになつて考え行動するという事が、現実的にどれだけ大変な事柄かは、誰でも理解できます。だからぜひとも『島』に行つて、『町おこし』をする上での『世間』の在り方をメモ帳を持つて、勉強してきたい。

※今年度（平成二十四年度）も残り少なくなりました。ボクの作文（エッセー）に対して、少數の方々ですけれど、ご意見やご感想を言っていただき有難うございました。やはり人間は、誉められると嬉しいものであります。また誉めてもらおうと、一生懸命に精進するものであります。そして又、いい加減な作文のときは、心ある批評を受けました。その事もまた、一生懸命に励むことにつながつてしまひました。今後は、下手クソですけれども、新聞の『読者欄』にも投稿（チャレンジ）していくといきたいと思うのであります。なぜなら、『作文練習』が、今の『僕の道』だからです。

て、市の職員に聞いてみたい。数え出したら頭が痛くなる。マジになつて來たら胃までも痛くなつた。ホットミルクを飲もう、や。

てゆくものと変わらないものが
ある。変わらないものが『生涯
学習』です。一人と云うのは何
事においても日々勉強しなけれ
ばならない」ということだと理解
している。枝川隆亮氏 平成
二十三年六月公民館だより・『編
集後記』より引用しました。

ばならないということだと理解
している。枝川隆亮氏 平成
二十三年六月公民館だより・『編
集後記』より引用しました。
武は実力で天智の皇子たちを越
える必要があつた。

母に育てられたのである。

海部が往年の力が見られなく
なった時代。能力に秀いでた天
武は実力で天智の皇子たちを越
える必要があつた。

実力で壬申の乱に勝利

海部あま じんしんの血筋

天武天皇

京都丹後学会会長
丹後ふるさと観光大使

坂本与一郎

天武天皇てんむてんのう

天皇と諡おくりりなされた。

綏喜郡田辺町普賢寺にある觀音
寺（大御堂）おおみどうと称

武元年（六八八）天
申（じんしん）の乱に勝利し

前進である觀心山親山寺（かん
しんざんしんざいじ）は義淵僧

正開基、天武天皇の勅願。

（淡交社刊「京都府大辞典府域
編」）なぞの多い天皇である。

生年がわからない。海人あま

族に育てられたという。兄天智

天皇とは異なり二男である。皇

位繼承権はなかつた。実名は大

部直県（あがた）の弟の真磯

（まいそ）が允恭（いんぎょう）

明天皇）。天智天皇（中大兄皇子）
は同母の兄にあたる。朱鳥元年
に崩御し、天淳名原瀛真人（あ
めのぬなはらのおきのまひと）

海人といつた。彼は凡海族の乳
母に育てられたのである。

天皇の御代（五世紀）に凡海郷
に移り凡海連の姓を賜つたとさ
れる。その後は凡海連小橋—凡
海連磯住—凡海連磯嶋の三代の
名が記されて終つてゐる。その
本拠地が凡海郷のどこにあつた
のか定かではないが、あるいは
神降臨の地で神山でもあつた冠
島の高峰を望む地で祖神を斎き
祭つていたのかも知れない。

冠島を管理する大浦半島の三
地区のうち一つは凡海連二代目
と同じ小橋（こばせ）という事
から両者の関係も考えられる。
小橋地区にはアンジャ島と呼ば
れる半島状の島の沖合いに沖葛
島・磯葛島の二島が連なり、地
名の小橋と合わせ海没した冠島
を含む大島と橋立のような砂州
でつながつてゐたのでは？と想
像が広がる（小橋には海橋寺と
いう名の寺院もある）。ちなみに
丹後半島側の新井崎には後述
するように冠島まで黄金の橋が

かかっていたという伝説が残る。

凡海氏はさまざまな資料にその名が見え、凡海連は天武天皇紀の八色（やくさ）の姓（かばね）にも入れられるなど中央でも活躍した氏族であった事が知られる。また後に天武天皇となる大海人（おおあま）皇子は凡海氏の養育を受けた事からその名、大海人（おおあま→おおあま）を称したとされ、壬申の乱の勝利は尾張の凡海氏（あるいは尾張の中心勢力であった尾張氏）海部氏そのものが？）の勢力が働いたとされるなど、特につながりが深い。

ところが凡海連は『新撰姓氏録』（平安時代に編纂された氏族の系譜）においては異なった記述が見られる。すなわち右京と摂津国神別では安曇（あずみ）氏と同族とされ、一方で未定雜姓（みていのぞうしょう）（古記と相違しあるいは旧典から洩

れた姓氏を集めた部分）の条では「火明命の後なり」とあって『丹後風土記残缺』『勘注系図』の記述と一致するのである。

しかし安曇氏は豊玉姫の父神であるワダツミ神の子孫である

と考えれば、矛盾は無くなる。つまり豊玉姫を媒介としてその実家にあたる地祇（国津神）系の安曇氏の一族と、その嫁ぎ先である天孫系の海部氏の一族の中で、共に凡海を称した一族があつたのではないだろうか。あるいは両者は元々同族であるとも考えられ、中央で活躍した凡海連が安曇氏と同族と称したの

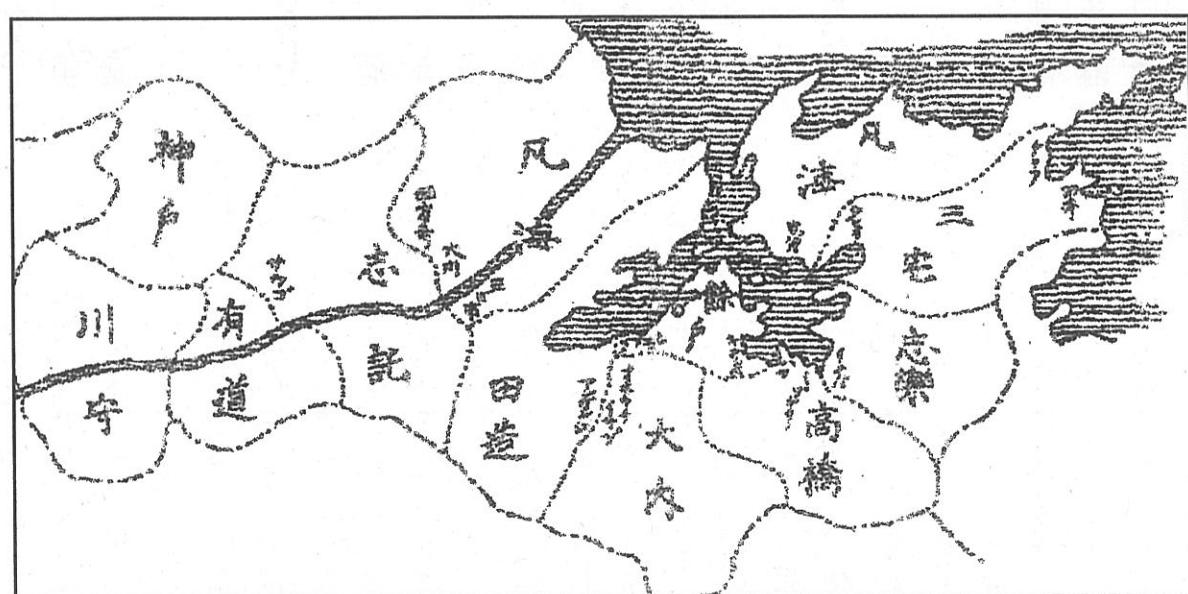
は、安曇氏が朝廷で大きな勢力をもつた事とも関係するかもしれない。

（籠神社奉賛会第十回研修会資料 平成十七年七月七日より）

壬申の乱に勝利し、天皇となつた天武天皇が、凡海連のこの土地に創建した神社だといふ。強力な応援に感謝したのだろう。

約一三〇〇年前の天武天皇の白鳳元年九月に淡路島の「日の少宮（ひのわかみや、現在の伊弉諾神宮）から奉遷したのに始まる」と伝えられている。祭神は朝代大明（伊弉諾尊、いざなぎのみこと）である。

近世に入つて丹後田辺藩町方の氏神さまとして藩主牧野家の歴代の尊崇あつい。



古代の加佐郡郷域推定図
（『加佐郡誌』より）

由良の源氏ボタル —その後—

藤本繁光

一昨年の当公民館だよりに

源氏ボタルの育成に成功したとの記事を登載して頂きました。

その後の経過状況などを皆様に報告します。

源氏ボタルの飛翔時期は、

五月下旬から六月下旬頃です。参考までに申し上げますと、平家ボタルは六月中旬から七月下旬ころが見頃です。

○源氏ボタル飛翔時期
五月～六月～七月
下旬一日～下旬

○平家ボタル飛翔時期……

飛翔時間は午後九時と午後十一時更に午前二時頃に多く飛ぶと言われており、その他時間帯は草に止まつて休憩

しております。

由良地区での源氏ボタルの発生地域は由良東部地区で、浜野路KTR踏切から石浦方面への市道周辺（金剛丸線の東側から森ヶ鼻方面）に沢山のボタルが見えます。

観賞には暗闇が必要です。昨年の話ですが、私が懐中電灯を持参し自転車で確認に行つた日の同時に、友人が乗用車で見に行き、ワインカーを点滅したけれどボタルが集まって来ず見えなかつたと言つて帰つておりました。車のスマートライトが点灯していても、その明るさの為ボタルは見えません。何としても真つ暗闇の中で観賞していたがたく思います。ボタルの発光を促す方法として、車のワインカーをチカチカさせるより

も、懐中電灯で排水路などを照射し、その後に消灯して排水路を見ますと発生していれば発光するはずです。

実績を申し上げます。源氏ボタルの発生実績です。

昨年（平成二十四年）の発生状況は、五月二十九日に発光初日を迎えて六月十日から二十日までは毎晩三十数匹程度の発光を認めました。参考に一昨年の平成二十三年の数を申し上げておきますと、六月五日から十五日頃まで毎晩六十から七十匹を確認しております。残念ながら昨年の発生件数が少なかつたのは前年の大量降雨で農業用排水路が土砂で埋まつてしまい、排水路の土砂を陸上へ上げたのが原因の一つではないかと思いま

す。昨年春、埋まつた排水路の各所で土砂を上げる工事をした為、ボタルの餌のカワニナも一緒に上げられて、貝の中に入つたボタルの幼虫が多数死滅したのではないかと考えられま

す。

更にもう一点は、大量出水でカワニナが由良川へ流されてしまったことも考えられます。カワニナを大切に管理育成したいものです。

カワニナの育成が大事なのですが、更に大切なのは、農業用排水路などにある陸地も必要なことです。その陸地には雑草が茂つて管理に大変ですが、草刈りをするなど土を陸地へ上げないようにして頂くことが重要だと思います。源氏ボタルを保護育成するためにも、由良地区の皆さんに守つて頂きたいお願いです。カワニナの保護と排水路の陸地の確保に、皆様のご協力をお願ひします。

公民館だよりをご愛読の皆さん源氏ボタルがどれだけ数多く飛翔するかを楽しみに、今年こそ鑑賞に行ってみてください。

穏やかな元日の朝に

矢 谷 浩

今年の元日の朝、新聞配達の仕事を終えて家の近く迄帰つて来ましたら、近所の人がカメラを構えています。カメラの方向

を見ますと、今、まさに初日の出が神崎の山から顔を出そうとしているところでした。

冬の丹後地方に珍しい穏やかな陽気で、美しい初日の出を拝むことが出来ましたが、近所の人のカメラを構えているところへでくわさなければ、私は家中で何も考えず、しばしの仮眠に入っていた事でしょう。そして清々しい気持ちでゆっくり由良ヶ岳を眺めていると、子供の頃いつも見ていた山々の姿がよみがえってきたのです。

私の生家は東舞鶴の行永といいう所にあり、近くには倉梯第二小学校や丸山球場があります。(私の家は、曾父母まで網野の

(掛津で機織りをしてました)

遠くに見える山を眺めたり、近くの山で遊ぶのが好きな少年期でした。

今、目の前にある由良ヶ岳は、どつしりとした姿に左右対象的で、両手を広げ懐深く私達を見守ってくれているように感じられます。子供の頃、毎日眺めていた山々と趣きが違い、とても魅力的です。

秋の収穫の頃、自動車で舞鶴から帰つて来た風景には、味わい深いものを感じます。石浦からサツと視界が広がり、由良ヶ岳より湧き出る清水で黄色く実った稻を、農家の人は額に汗して刈り取る姿。正面には満々と水を湛えた由良川が白波の立つ日本海に注ぎ、鉄橋と列車がのんびりと走つて行く姿に

ハガキの中にいるようです。私の友人が何度も由良に遊びに来て「こんな景色のいい所に住んで、うらやましい。有難いなあ」とよく私に言います。

話しさは少し横道にそれますが、「有難い」「有難う」という言葉に関連して、知人からこんな話を聞きました。その知人の近所の家の事ですが、その家には小学生の女の子が居ります。学校の国語の時間に反対言葉を習っているところなのか、家で親に「〇〇の反対言葉はなあに」とよく質問するそうです。たとえば「明るい」の反対は「暗い」「開く」の反対は「閉じる」というふうに。その子は毎朝ポストに届けられている新聞を取りに行き、居間に座つてお父さんにハイと手渡すのが日課だつたようです。

私も由良に来た頃は、由良の

海、山、川の風景がとても新鮮でよく眺めて居りましたが三十年もたつた今、当たり前になつて海も山も別に見るわけでもなく、雑多な生活を送っています。由良にある、海、山、川、そして鉄橋、どれも遠慮がちに小さなものはありません。大きく広がる日本海、どつしり構える由良ヶ岳、大きくゆつたり流れ

葉?ウーン』お父さんは分かりません。そこでその子は、「反対の言葉は、当たり前や」と少し吐き捨てるよう言つたのです。その女の子からしてみれば、毎日お父さんのところへ新聞を持つて行つてのに、「有難う」の一言もなく、当り前の態度が気に入らなかつたのでしよう。

「有難い」という言葉は「有ることが難かしい」と辞書に書いてあります。う女の子の答えは、言い得て妙だなと思いました。

私も由良に来た頃は、由良の海、山、川の風景がとても新鮮でよく眺めて居りましたが三十年もたつた今、当たり前になつて海も山も別に見るわけでもなく、雑多な生活を送つています。由良にある、海、山、川、そして鉄橋、どれも遠慮がちに小さなものはありません。大きく広がる日本海、どつしり構える由良ヶ岳、大きくゆつたり流れ

由良岳登山証明書発行数

平成24年1月1日～
12月31日まで

726枚

平成23年 741枚

平成22年 801枚

平成21年 1010枚

(証明書の発行は平成21年から)



地区にはこれ程揃つたところはなかなか無いと思います。

たまには新鮮な目でゆっくりと地元の風景を楽しんでみよう。そして由良の自然の魅力や味わいをもつともつと多くの人に伝えられたらと思います。

由良ヶ岳は、泣き笑いの今昔をずっと見てきたんだなあ。逆にこの稜線を都の争いから逃がれてきた蜂子皇子は、三庄太夫の屋敷から汐汲に歩いた安寿姫はどんな思いで見ていたんだろう。

「新（しん）」は「深（しん）」新しいものを作つたり取り入れたりする事も大切ですが、現

在周りに存在するものを深く掘り下げていけば、新たな発見があるような気がします。

今年は、由良小学校が閉校す

るという淋しい年ですが、元日に見た初日の出のような、明るく輝く年になればと思います。

元日の朝、由良ヶ岳をゆっくりと眺めながら、思い巡らした事を記しました。

編集後記

2013 (H25) 3月

立春を過ぎ太陽が顔を出す

日は暖かくなり、春の訪れを感じるようになりました。今

年も風邪が大流行しているよ

うです。

ノロウイルスも猛威をふるっています。油断大敵、暖かい服装でお過ごしください。

春はそこまで来ています。

有害鳥獣保護柵設置も各地区完成しました。我のもの顔で田畠を荒らし続けたイノシシやシカの顔を見なくなつたので安心していたら天敵がいなくなつたのかヌートリアやカラスの被害をよく目にします。

境なく野菜やみかん類を手当たり次第食い荒らしています。被害に遭われた方も多いでしょう。近年の農業は動物との競争になつてきました。田畠全てに防護網か電気柵を設置しなければならない時代が到来した様です。

